

2026年4月4日配布

第388回 山口西田読書会プロトコル

(2026年3月14日開催)

奈原伸雄

1 テキスト

西田幾多郎 著『働くものから見るものへ：後編「知るもの」四』

〈西田幾多郎全集 第四巻 岩波書店(1979.1.9) 348頁10行～349頁12行〉

2 キーセンテンス及び考察と問い

(1) キーセンテンス

「物の概念は現象の概念に變ぜられるのである」(348頁13行：「」内はテキストからの引用。傍点と〈〉内は筆者。以下同じ)。

(2) 考察と問い

(1)の文は〈不知の物自体〉が〈知の形式〉へ変換可能とも読める。しかし、それは「限定できないもの」を仮に「限定して見たもの」に過ぎない。限定が「肯定的」であれば静態的な「知覚の対象界」が見られ、「否定を含む矛盾的統一」であれば動態を含む「物理現象界」が見られよう。但し、これらはいずれも仮定の「如きもの」の世界であって、真に「変ずるもの」たる「内容を有つた時」は、「抽象的一般としては限定できない」。然らば、我々はかく「限定せられた概念の外に出」て、「矛盾」が「その背後に否定を包んだ一般者」を見る「無の場所」において、「否定の肯定」をせざるを得ないと解するが如何。